

取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、ご使用の前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。



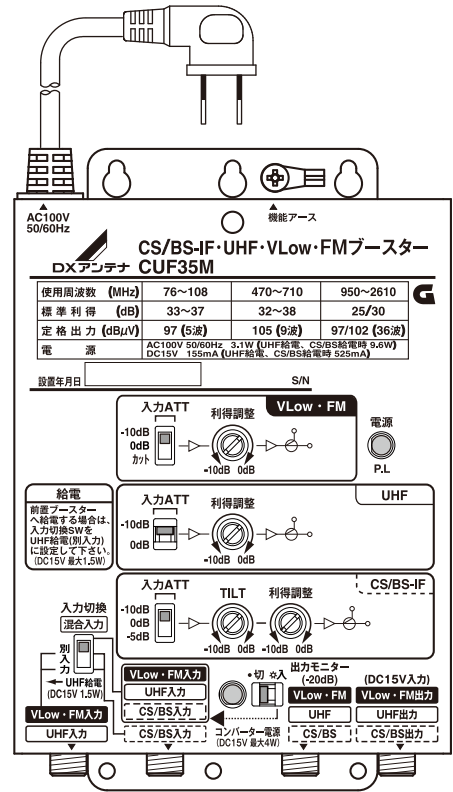
共同受信用ブースター

V-Low・FM 76~108MHz、UHF 470~710MHz、CS/BS-IF 950~2610MHz増幅用
前置ブースター用給電スイッチ付
電源内蔵形 屋内用

— CS/BS-IF・UHF・V-Low・FMブースター —
CUF35M UHF35dB形

— UHF・V-Low・FMブースター —
UF35M UHF35dB形

— CS/BS-IFブースター —
C30M CS/BS30dB形



※イラストはCUF35Mです。

安全上のご注意

お使いになる方や他の人々への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。本文中に使われている図記号の意味は、次のとおりです。

	一般的な注意事項		機器の分解禁止		水ぬれ禁止		接触禁止		一般的な禁止事項		指示を守る
--	----------	--	---------	--	-------	--	------	--	----------	--	-------

警告

この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

テレビ受信工事には技術と経験が必要です。お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。



注意

表示された電源電圧以外の電圧で使用しない
火災や感電の原因となります。



禁止

製品内部に水などが入った場合や、落として破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜く
そのまま使用すると火災や感電の原因となります。お買い上げの販売店・工事店にご連絡ください。



抜取り指示

電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜く
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災や感電の原因となります。



抜取り指示

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となります。



接触禁止

雷が鳴り出したら、製品には触れない
感電の原因となります。



接触禁止

以下の場所に設置しない

落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

- ・強度の弱い場所
- ・不安定な場所
- ・ぐらついたり振動したりする場所
- ・傾いた場所



禁止

煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用しない

火災や感電の原因となります。すぐに、ブースター電源部の電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店・工事に修理をご相談ください。



抜き取り指示

以下の環境に設置しない

変形や火災、感電など事故の原因となり、製品寿命が短くなることがあります。

- ・直射日光の当たる場所
- ・放熱機能のないボックス内
- ・屋外・風呂場・洗い場・水がかかる場所
- ・湿気やほこりの多い場所
- ・調理台や加湿器のそばなど高温になる場所
- ・油煙や湯気があたる場所



禁止



水ぬれ禁止

接地する

引っ張り強さ 0.39N 以上の金属線、または直径 1.6 mm の軟導線で接地してください。接地しないと避雷やシールドの効果が下がり、感電や故障の原因となります。



締め付け指示

取り付けネジや接栓の締め付け力(トルク)に指定がある場合は、その力(トルク)で締め付け、固定する落ちたり、破損したりして、けがの原因となります。



接続指示

電源コードを傷つけたり、破損させたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしない

また、重いものをのせたり、加熱したり(熱器具に近づける)、引っ張ったりしない

火災や感電の原因となります。電源コードが傷んだとき(心線の露出、断線など)はお買い上げの販売店・工事店にご相談ください。



禁止

製品を分解・改造しない

感電やけがの原因となります。また、製品の性能が維持できなくなり、故障の原因となります。



分解禁止

通風孔をふさいだり、内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだりしない

火災や感電の原因となります。



禁止

電源プラグは、コンセントの根元までしっかりと差し込む

ゴミやほこりが付着しているときは拭き取ってください。火災の原因となります。



禁止

注意

この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

AMラジオから1.5m以上離して使用する

AMラジオの近くで使用するとラジオ音声にノイズが入る場合があります。



注意

お取扱いの前に 設置作業は、この取扱説明書をよくお読みのうえ行なってください。

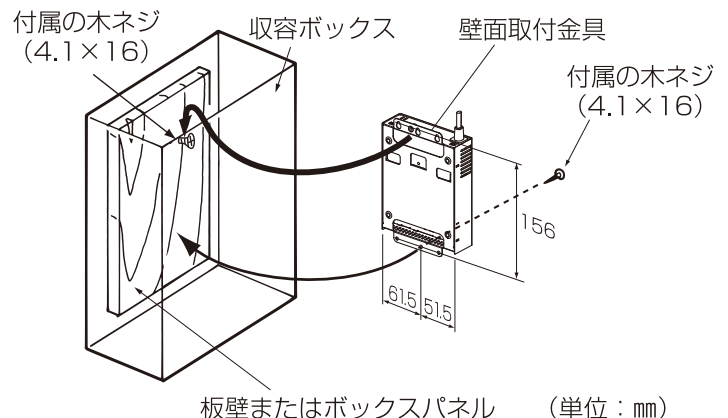
- この製品を屋外に設置する場合は、必ず防水・防雨ならびに放熱処理を施した収容ボックスなどに収容してください。
- 電源を供給する前に機能アースを必ず接地してください。なお、機能アースは安全アースではありません。
- この製品に接続する同軸ケーブルが7Cタイプの場合には、必ずコンタクトピン付き接栓をご使用ください。心線径が1.3mmを超えるケーブルを直接接続すると変形や接触不良などの原因となります。
- 接続する同軸ケーブルの接栓取り付けは、その同軸ケーブル専用の接栓を説明書通り加工してご使用ください。特殊な加工をしたものを使用すると特性の悪化や機器の破損につながります。
- 入出力端子へのF形接栓の接続は、接続ナットを1~2N・mで締め付けてください(2N・mを超えると破損する場合があります)。
- 市販のブースター用電源装置で入力端子から給電する場合、CS/BS入力端子をご使用ください。UHF入力端子からは給電できません。

取付方法

- 図のように板壁または放熱を施した収容ボックスのパネル板に壁面取付金具を付属の木ネジ1本で取り付け、ブースターを掛けてください。次に残りの木ネジ1本でブースターの下側を固定し、しっかりと取り付けてください。
- 収容ボックスは外形寸法500×500×140mm以上のものを使用してください。
- 入出力端子へ接続するF形接栓(付属)の加工方法は、裏面をご覧ください。

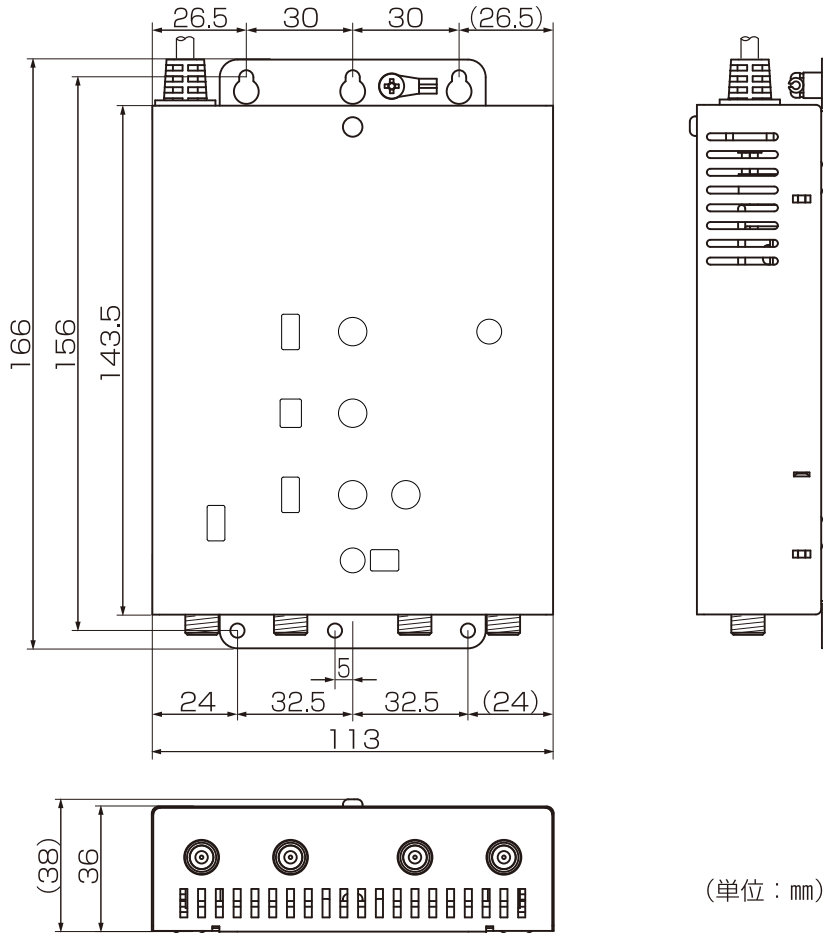
〈ご注意〉

天井や熱のこもる場所への取り付けは避けてください。また必ず入出力端子が下向きになるようにブースター本体を取り付けてください。他の方向に取り付けると放熱効果が失われ、性能が維持できなくなる場合があります。



外形寸法図

寸法は全機種共通です。



※この製品を処分するときは、産業廃棄物として処理してください。

保証書

※本書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管ください。

●無料修理規定

1. 本保証書は、お買い上げから下記保証期間内に故障した場合、無料修理規定により、当社が責任をもって無料修理を行なうことをお約束するものです。(消耗部品は除く)したがって、この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
2. 保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明な場合は、お買い求めの販売店、当社営業所またはカスタマーセンターにお問い合わせください。なお、商品を直接当社へ送付した場合の送料などはお客さまのご負担とさせていただきます。また、保証期間経過後の修理についても、お買い求めの販売店、当社営業所またはカスタマーセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。
3. 保証期間中、取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、お買い求めの販売店を通じて無料修理いたしますのでお申し付けください。
4. 次のような場合には保証期間内でも有料修理となります。
 - ①ご使用上の誤り、および不当な修理や改造による故障および損傷。
 - ②お買い上げ後の取り付け場所の移設、輸送、落下などによる故障および損傷。
 - ③火災、地震、噴火、洪水・津波などの水害、落雷、その他の天変地異、戦争・暴動による破壊行為、公害、塩害、ガス害、ねずみや昆虫、鳥など動物の行為による損傷、指定以外の使用電源(電圧、周波数)や異常電圧による故障および損傷。
 - ④塗装の色あせなどの経年劣化や、使用に伴う摩擦などにより生じる外観上の現象。
 - ⑤用途以外(例えば車両、船舶への搭載など)に使用された場合の故障および損傷。
 - ⑥本保証書を提示・添付されていない場合。
 - ⑦本保証書にお買い上げ年月日、お客様名、お買い求めの販売店の記入のない場合、または字句を書き換えられた場合。
5. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。(This Warranty is valid only in Japan.)
6. 期間中の転居、贈答品、その他の理由によりお買い求めの販売店に修理が依頼できない場合には、当社カスタマーセンターまたは当社営業所にご相談ください。
7. お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

型番		お買上月日		保証期間	お買上日から	
CUF35M / UF35M / C30M		年 月 日			1 年間	
販売店	ご注文・ご店名			お名前		
	電話 () -			ふりがな		
			お客様			様
			お住所			
			電話 () -			

カスタマーセンター ☎0120-941-542 携帯電話・PHS・一部のIP電話で左記番号がご利用になれない場合 03-4530-8079 (受付時間 9:30~17:00 夏季・年末年始休暇は除く)

お昼時間土日祝日もご利用ください!

ホームページアドレス <http://www.dxantenna.co.jp/>

DXアンテナ株式会社

本社/〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通2番15号

(1404)

規格特性

品名 / 型番	CS/BS-IF・UHF・V-Low・FMプースター / CUF35M		
	V-Low・FM	UHF	CS/BS-IF
使用帯域	—	13~52	—
使用チャンネル (ch.)	—	13~52	—
使用周波数帯域 (MHz)	76~108	470~710	950~2150 950~2610
標準利得 (dB)	35	35	25/29 (注1) 25/30 (注2)
利得調整範囲 (dB)	0~-10以上 (連続可変)	0~-10以上 (連続可変)	0~-10以上 (連続可変)
入力レベル範囲 (dBμV)	44~72 (注4)	44~80 (注4)	44~86(注4)(24波) 44~82(注4)(36波)
定格出力レベル(注5) (dBμV)	97 (FM5波+V-Low)	105 (9波)	101/105(24波) 97/102(36波)
入力 A T T (dB)	0、-10 / カット (スイッチ切換式)	0、-10 (スイッチ切換式)	0、-5/-10 (スイッチ切換式)
T I L T (dB)	—	—	0~-10以上 (連続可変) (注3)
帯域内周波数特性(注5) (dB)	±2.0 以内	±3.0 以内	±3.0 以内
雑音指数(注5) (dB)	5 以下	4 以下	7 以下
相互変調 (IM2) (注5) (dB)	—	—	-31 以下
相互変調 (IM3) (注5) (dB)	-72 以下	-71 以下	-59以下(24波) -63以下(36波)
V S W R (注5) (dB)	—	2.5 以下	—
利得安定度(注5) (dB)	—	±2.5 以内	—
入出力インピーダンス(注5) (Ω)	—	75 (F形)	—
出力モニター (Ω)	—	-20	—
耐雷性 (dB)	入出力端子・電源端子 ±20 (1.2/50μs)		
供給電源 (kV)	—	DC15V 1.5W	DC15V 4W
電源 / 消費電力	AC100V(50/60Hz)/3.1W (7.5VA)、UHF給電時 6W (12.5VA)、CS/BS給電時 8W (16.0VA)、UHF-CS/BS給電時 9.6W (18.8VA) DC15V/155mA、UHF給電時 255mA、CS/BS給電時 425mA、UHF-CS/BS給電時 525mA		
使用温度範囲 (°C)	-10~+40		
外形寸法 (mm)	166(H) × 113(W) × 38(D)		
質量 (kg)	0.55		

品名 / 型番	UHF・V-Low・FMプースター / UF35M	
	V-Low・FM	UHF
使用帯域	—	13~52
使用チャンネル (ch.)	—	13~52
使用周波数帯域 (MHz)	76~108	470~710
標準利得 (dB)	35	35
利得調整範囲 (dB)	0~-10以上 (連続可変)	0~-10以上 (連続可変)
入力レベル範囲 (dBμV)	44~72 (注4)	44~80 (注4)
定格出力レベル(注5) (dBμV)	97 (FM5波+V-Low)	105 (9波)
入力 A T T (dB)	0、-10 / カット (スイッチ切換式)	0、-10 (スイッチ切換式)
帯域内周波数特性(注5) (dB)	±2.0 以内	±3.0 以内
雑音指数(注5) (dB)	5 以下	4 以下
相互変調 (IM3) (注5) (dB)	-72 以下	-71 以下
V S W R (注5) (dB)	—	2.5 以下
利得安定度(注5) (dB)	—	±2.5 以内
入出力インピーダンス(注5) (Ω)	—	75 (F形)
出力モニター (Ω)	—	-20
耐雷性 (dB)	入出力端子・電源端子 ±20 (1.2/50μs)	
供給電源 (kV)	DC15V 1.5W	
電源 / 消費電力	AC100V(50/60Hz)/2W (5.3VA)、FM・UHF給電時 5.5W (11.8VA) DC15V/80mA、FM・UHF給電時 280mA	
使用温度範囲 (°C)	-10~+40	
外形寸法 (mm)	166(H) × 113(W) × 38(D)	
質量 (kg)	0.55	

- (注1) 950/2150MHz値
- (注2) 950/2610MHz値
- (注3) 2610MHz基準
- (注4) 入力ATTスイッチを[-10dB]にした時の最大入力レベル
- (注5) 利得最大時

品名 / 型番	CS/BS-IFプースター / C30M	
	UHF・V-Low・FM (CATV)	CS/BS-IF
使用帯域	—	—
使用チャンネル (ch.)	—	—
使用周波数帯域 (MHz)	10~770	950~2150 950~2610
標準利得 (dB)	0~-5	25/29 (注1) 25/30 (注2)
利得調整範囲 (dB)	—	0~-10以上 (連続可変)
入力レベル範囲 (dBμV)	—	44~86(注4)(24波) 44~82 (注4)(36波)
定格出力レベル(注5) (dBμV)	—	101/105(24波) 97/102(36波)
入力 A T T (dB)	—	0、-5/-10 (スイッチ切換式)
T I L T (dB)	—	0~-10以上 (連続可変) (注3)
帯域内周波数特性(注5) (dB)	—	±3.0 以内
雑音指数(注5) (dB)	—	7 以下
相互変調 (IM2) (注5) (dB)	—	-31 以下
相互変調 (IM3) (注5) (dB)	—	-59以下(24波) -63以下(36波)
V S W R (注5) (dB)	—	2.5 以下
利得安定度(注5) (dB)	—	±2.5 以内
入出力インピーダンス(注5) (Ω)	—	75 (F形)
出力モニター (Ω)	—	-20
耐雷性 (dB)	入出力端子・電源端子 ±20 (1.2/50μs)	
供給電源 (kV)	DC15V 1.5W	DC15V 4W
電源 / 消費電力	A100V(50/60Hz)/1.5W (4.1VA)、UHF給電時 3.3W (7.9VA)、CS/BS給電時 6.3W (13.3VA)、UHF-CS/BS給電時 8W (15.7VA) DC15V/60mA、UHF給電時 160mA、CS/BS給電時 330mA、UHF-CS/BS給電時 430mA	
使用温度範囲 (°C)	-10~+40	
外形寸法 (mm)	166(H) × 113(W) × 38(D)	
質量 (kg)	0.55	

- 付属品
- 木ネジ(4.1×16) ……2本
- CUF35M** **UF35M**
- F-5接栓(リング付) ……3個

仕様は改良により、予告なく変更させていただくことがありますのでご了承ください。

各部の名称

※下図スイッチ位置は出荷時の設定です。ボリューム位置は出荷時は最小側です。

※各スイッチおよびボリュームは調整用小形ドライバーで軽く操作してください。
 ※各スイッチは「カチッ」となるまで動かしてください。
 ※CUF35Mを代表例に説明しています。

V-Low・FM (CUF35M) (UF35M)

入力ATTスイッチ
 0、-10dB(スイッチ式)、またはカットを選択できます。使用しない場合、カットすることで消費電力の低減が可能です。(⇒③参照)

CS/BS (CUF35M) (C30M)

入力ATTスイッチ
 0、-5/-10dB(スイッチ式)を選択できます。(⇒③参照)

〈共通〉 (CUF35M) (UF35M) (C30M)

入力切換スイッチ
 CS/BS信号とUHF・V-Low・FM信号が、混合入力、別入力もしくは、UHF供給の3つ切換が可能です。(⇒①参照)

(CUF35M) (C30M)

コンバーター通電確認ランプ
 コンバーター通電時「入」: 赤色点灯

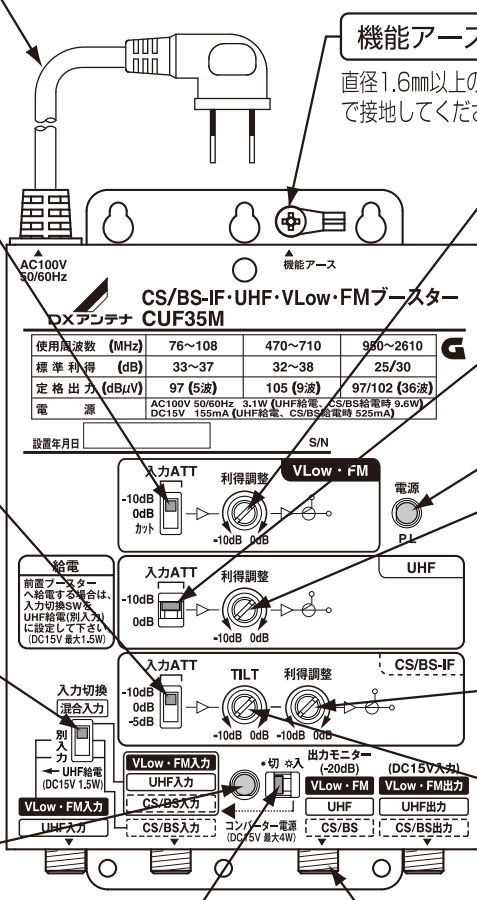
●入力切換スイッチ: 別入力の場合
UHF・V-Low・FM入力端子

●入力切換スイッチ: 混合入力の場合
 この端子は使用しません。

●入力切換スイッチ: 別入力の場合
CS/BS入力端子

●入力切換スイッチ: 混合入力の場合
CS/BS・UHF・V-Low・FM混合入力端子

コンバーター用電源出力端子、DC15Vを重畳して給電できます。(給電方法は「便利な使い方」をご覧ください)



V-Low・FM (CUF35M) (UF35M)

利得調整ボリューム
 0dBから-10dB連続で調整できます。(⇒⑤参照)

UHF (CUF35M) (UF35M)

入力ATTスイッチ
 0、-10dB(スイッチ式)を選択できます。(⇒③参照)

P.L (パイロットランプ)

利得調整ボリューム
 0dBから-10dB連続で調整できます。(⇒⑤参照)

CS/BS (CUF35M) (C30M)

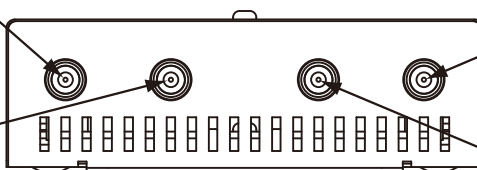
利得調整ボリューム
 0dBから-10dB連続で調整できます。(⇒⑤参照)

TILT調整ボリューム
 2610MHzを基準にして950MHzの利得が最大10dB減衰します。(⇒④参照)

(CUF35M) (C30M)

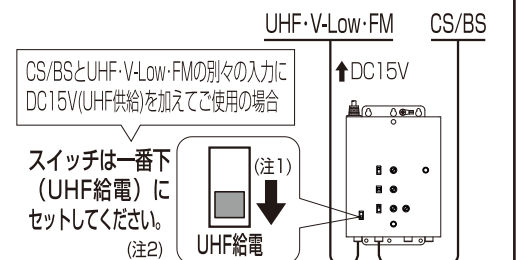
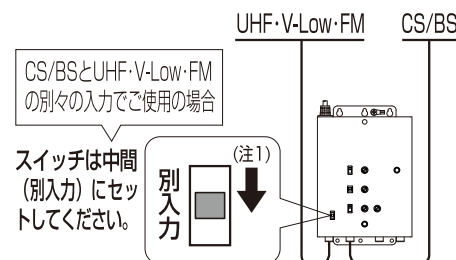
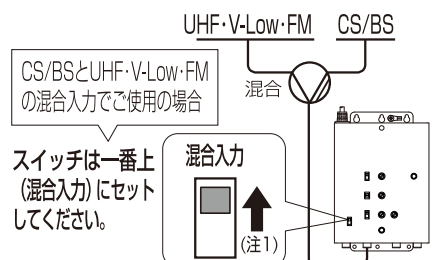
コンバーター電源スイッチ
 「入」にするとDC15Vが供給され、確認ランプが赤色に点灯します。(⇒②参照)

(注1) 出力モニター端子を使用しない場合は、付属の防じんキャップを取り付けてください。



① 入力切換スイッチの操作

※CUF35Mを代表例に説明しています。



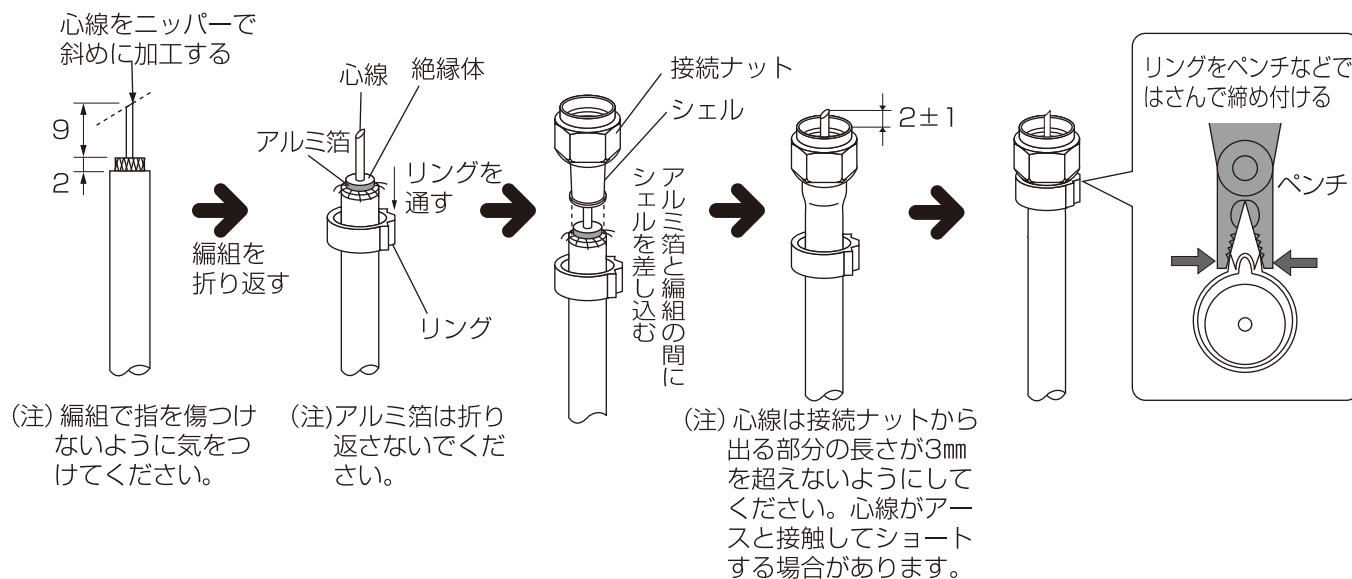
(注1) スwitchは「カチッ」となるまで動かしてください。
 (注2) 本製品の前面に前置ブースターを使用しない場合は、絶対にスイッチを一番下にしないでください。テレビが映らなくなり、故障の原因となります。

使用上のご注意

- 長時間放置後にスイッチを切り換える場合、切換操作を数回行い、スイッチ接点部の活性化(クリーニング)をしてください。
- 出力モニターは、出力端子にケーブルが接続されていないと正確なレベルを出力しません。より正確なレベル測定を行う場合、出力端子を使用してください。
- 放熱性に富むアルミ合金製シャーシを採用していますので、筐体が熱を持ちますが異常ではありません。
- 正常な動作を確認するために、定期的な点検を実施してください。
- 市販の重畳用電源装置を使用してCS/BSコンバーターとUHF前置ブースターに電源を供給する場合、電流容量は1A以下にしてください。

接栓と同軸ケーブルの加工方法 ※C30MにはF-5接栓(リング付)は付属しておりません。別売のC-15形接栓をご使用ください。

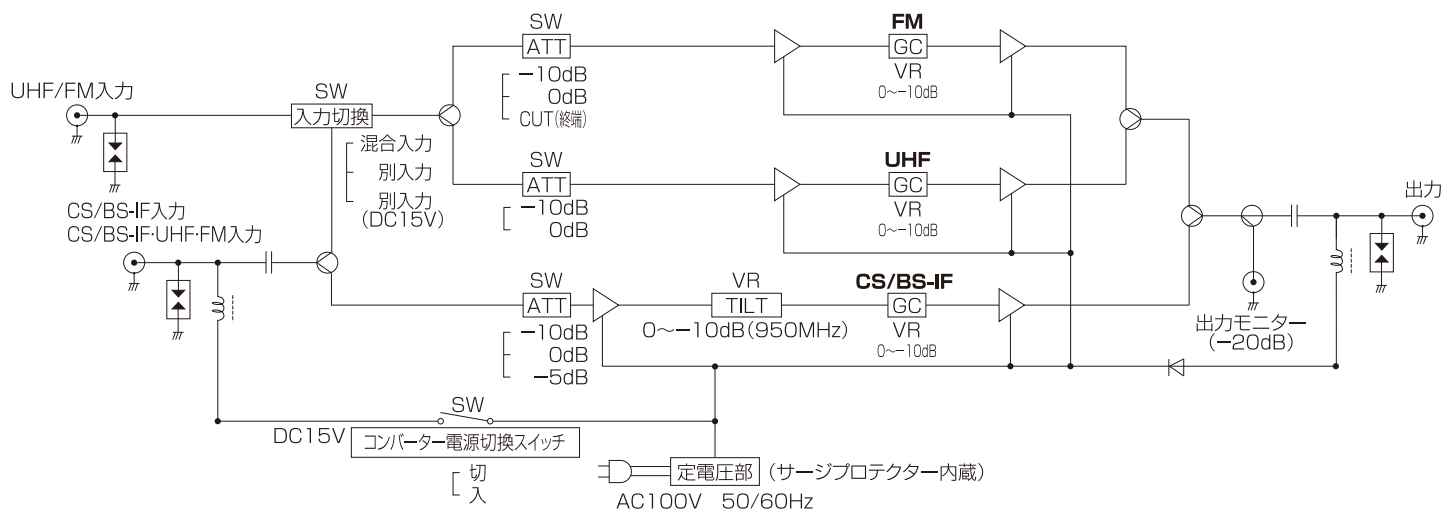
〈例：S-5C-FBケーブル使用時〉 (単位：mm)



〈ご注意〉

- 電波を効率よく伝送するため、同軸ケーブルはS-5C-FBの低損失ケーブルをおすすめします。
- 接栓は同軸ケーブルに適したサイズのものをご使用ください。
- 同軸ケーブルの先端加工をする場合、心線、編組に傷をつけないでください。断線の原因になります。
- 編組と心線が接触しないようにしてください。テレビが見えなくなるだけでなく、電源部がショートして火災や感電の原因となります。
- 接栓を取り付けた同軸ケーブルの心線は、曲がっていないかを確認し、曲げないように接続してください。
- 心線に白い膜が付いている場合は、接触不良の原因となりますので、必ずこすり取ってください。

ブロックダイアグラム ※下図ブロック図はCUF35Mです。

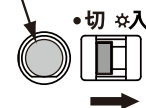


- ・UF35MはCS/BS-IFの系統やコンバーター電源スイッチがありません。
- ・C30Mの場合UHF・V-Lowはパス回路になります。

② CS/BSコンバーター電源スイッチの操作

- CS/BSコンバーター用電源(DC15V最大4W)を供給する場合は、コンバーター電源スイッチを「入」にしてください。ランプ(P.L)が赤色に点灯します。
- CS/BSコンバーターを動作させるための重畳電源を供給できる端子はCS/BS・UHF・V-Low・FM混合入力端子のみです。
- 電源の供給はCS/BSコンバーターへのケーブルの接続を確認した後に行なってください。
- 入力端子側でショートしている場合、コンバーター通電確認ランプが消え、この製品が動作しなくなり故障の原因となります。CS/BSコンバーター電源スイッチを「切」にして、入力端子側のショート箇所を取り除いてください。
- 重畳ラインの機器は必ず通電形をご使用ください。
- 重畳電源で動作させる以外の場合に通電しますと事故の原因となりますのでご注意ください。

コンバーター通電
確認ランプ

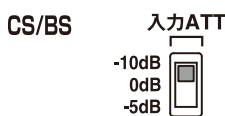
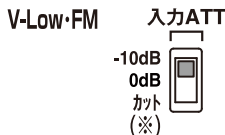


③ 入力ATTスイッチの操作

- 入力ATTスイッチを操作させることにより、入力レベルをフラットに下げることができます。
- それでもなお、入力オーバーの時は、別売りのアッテネーター(減衰器)を入力端子に挿入してください。

※V-Low・FMのカットスイッチの操作

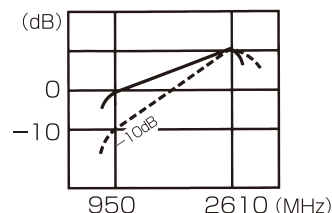
V-Low・FMを使用しない場合は、スイッチをカットにしてください。消費電力を低減することができます。



④ TILT調整ボリューム

CS/BSの調整

- CS/BS TILT調整ボリュームを反時計方向いっぱいに回しきると2610MHz付近を基準にして950MHzの利得が10dB減衰します。



⑤ 利得調整ボリュームの操作

CS/BS、UHF、V-Low・FMの調整

- 利得調整ボリュームは反時計方向いっぱいに回しきった時、利得最小となります。
- カスケード運用において、後段の機器に影響がでる場合は「反時計回り」に調整してください。

〈ご注意〉ボリュームは調整用小形ドライバーで軽く操作してください。強く回すとボリュームが破損する場合があります。

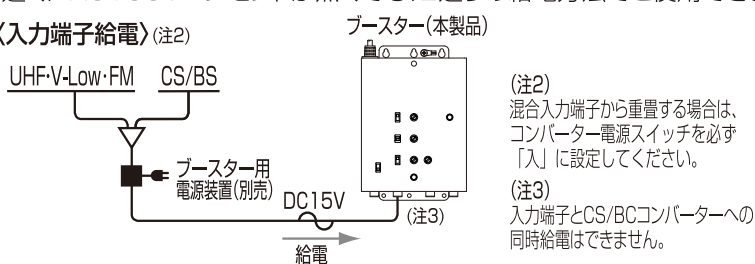
利得調整



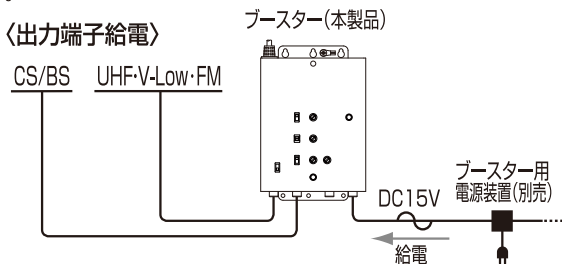
〈便利な使い方〉入力/出力端子からの給電

- 近くにAC100Vコンセントが無くても、2通りの給電方法でご使用できます。

〈入力端子給電〉(注2)



〈出力端子給電〉



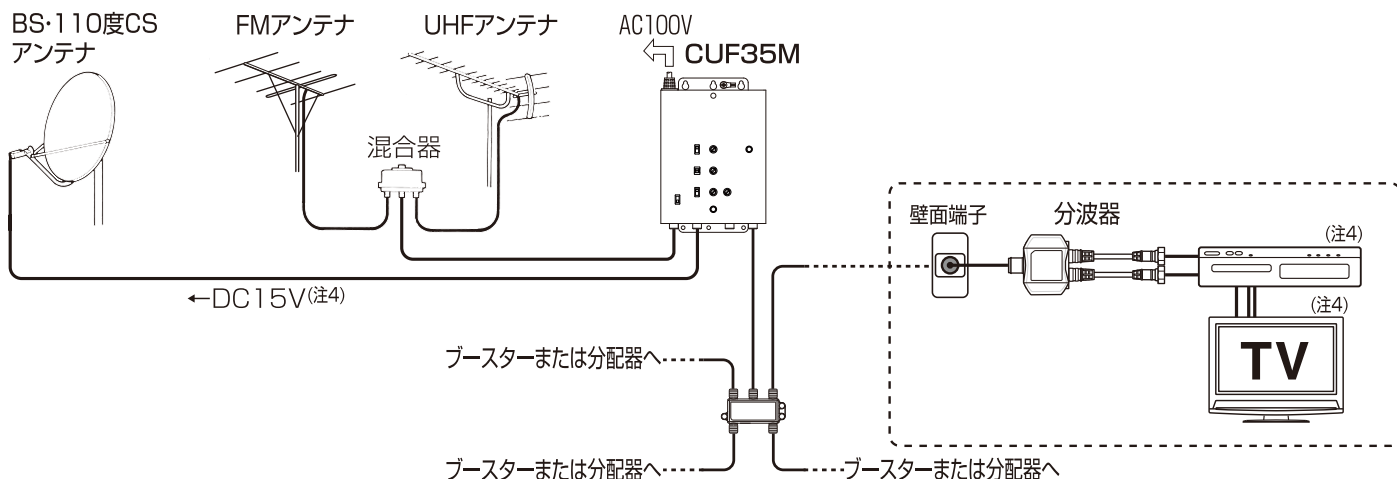
使用例 ※CUF35Mの場合

〈衛星放送〉

BS・110度CS
アンテナ

〈テレビ放送〉

FMアンテナ UHFアンテナ



(注4) テレビなどのCS/BSコンバーター用電源スイッチは「切」にしてください。

〈調整の流れ〉

手順1へ

入力信号レベル
の確認

手順2へ

入力信号レベル
の調整

手順3へ

信号の入力
方法選択

手順4へ

ケーブルの
接続

手順5へ

測定器の
接続

手順6へ

各帯域の調整

手順7へ

最終チェック

弊社がおすすめる基本的な調整手順は下記のとおりです。

■手順1：入力信号レベルを確認（重要）

はじめに、スペクトラムアナライザー（電界強度測定器など）またはレベルチェッカーで各帯域の入力信号レベルを測定し、入力レベル範囲内であることを確認してください。

V-Low・FM：44～72dB μ V

UHF：44～80dB μ V

CS/BS※：24波時 44～86/86dB μ V(950MHz/2150MHz)（▶図1）、36波時 44～82/82dB μ V(950MHz/2610MHz)（▶図2）

このとき、上記レベル範囲を超える場合は入力側にアッテネーター（別売）を接続し、下回る場合はアンテナの方向が視聴可能な基地局に正しく向いているかを確認/調整してください。

※レベルチェッカーなどのCS/BSコンバーター
供給用電源によりBS・110度CSアンテナに
DC15Vを供給してください。

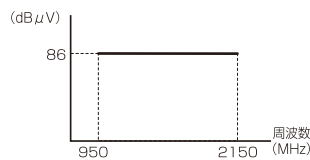


図1. 24波時入力レベル上限値

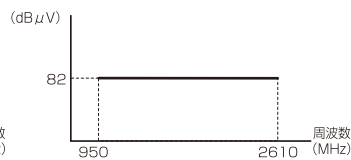


図2. 36波時入力レベル上限値

■手順2：入力信号レベルの調整（重要）

確認した入力レベルが下記のレベルに近づくように各帯域の入力ATTスイッチを設定しておいてください。

V-Low・FM：62dB μ V

UHF：70dB μ V

CS/BS：24波時 76/76dB μ V（950MHz/2150MHz）、36波時 72/72dB μ V（950MHz/2610MHz）

■手順3：信号の入力方法選択（混合入力／別入力の選択）

入力切換スイッチをお客様の使用環境に合わせて選択してください。
（ケーブルを接続する前に選択してください）

■手順4：ケーブルを接続

入力端子にアンテナ側の同軸ケーブルを接続してください。

次に出力端子に端末側の同軸ケーブルを接続（または75 Ω で終端）してください。

■手順5：測定器の接続

スペクトラムアナライザー（電界強度測定器など）またはレベルチェッカーを出力モニター端子に接続してください。なお、出力端子に同軸ケーブルが接続（または75 Ω で終端）されていないと出力モニター端子は正確なレベルを出力しません。

※より正確なレベル測定を行なう場合、出力端子に測定器を接続してください。

※測定を行う時、非常に高い出力レベルとなる場合があります。測定器故障の原因となりますので入力レンジに注意してください。

■手順6：各帯域の調整（手順1～4完了後に行なってください）

出力モニター端子は出力レベルから20dB低い値を示しますので、真の出力レベルは20dBを加えてください。

<V-Low・FMの調整> **CUF35M** **UF35M**

出力レベルを測定します。出力モニターレベル（77dB μ V）（※1）以下になるように、利得調整ボリュームで調整してください。
（※1 定格出力レベル 97dB μ V）

<UHFの調整> **CUF35M** **UF35M**

出力レベルを測定します。出力モニターレベル（85dB μ V）（※2）以下になるように、利得調整ボリュームで調整してください。
（※2 定格出力レベル 105dB μ V）

<CS/BSの調整> **CUF35M** **C30M**

出力レベルを測定します。出力モニターレベル（81/85dB μ V：24波時、77/82dB μ V：36波時）（※3）以下になるように、利得調整ボリュームで調整してください。（※3 定格出力レベル 101/105dB μ V：24波時、97/102dB μ V：36波時）

■手順7：最終チェック

この製品の後段に接続する機器に対して過入力の場合は、各帯域の利得調整ボリュームを反時計回りに回して調整してください。また、最終的に映像が正常に映ることを確認してください。

〈参考〉カスケード（多段）接続時の運用

カスケード（多段）接続する場合は、各ブースターの出力レベルを以下のように設定してください。

